



発行所：みんなで政治を考える会
〒615-0062 京都市右京区西院坤町2
ケイハンシテイビル601
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310

発行人：二ノ湯智
国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館632号室
TEL.03-3508-8632 FAX.03-5512-2632

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはぐくみ、平和を希望する言葉です。 題字：栢木寛照

えとす

年間購読料 1,200円 (一部100円)
第3種郵便物認可 平成2年1月18日
口座 01000-4-62360

平成19年 4月号
No.191

京都の智恵を日本に活かす。
二ノ湯智ホームページ <http://www.ninoyusatoshi.com>

前半の統一選、自民党に厳しい結果 府会、市会とも伸び悩み



二ノ湯君堂々3位で初当選

前半戦の統一地方選挙が終わった。全国的に見れば、民主党がやや勢力を伸ばし、自民党が少し落ち込んだ。市町村合併が進んで、市町村会議員が大幅に減少したことや地方議会の議員定数削減により、かつての自民党集票マシンの機能の低下が今回の自民党の低落となったようだ。京都においても全国的な傾向と同様で、自民党に勢いがなかった。今回の統一選では、民主党が府会、京都市会で若手候補者を積極的に擁立し攻めの選挙を展開、一方自民党は現有議席の確保という守りの選挙となったために、党勢拡大をはかることができなかった。府会議員では、公認候補が3名落選、京都市会議員は10行政区の中でトップ当選が出来ず、今後の統一地方選挙への取り組みに大きな課題を残した。府会・京都市会の勢力分野においては、無所属の会派入りもあり、選挙前勢力を確保し、山田府政、榊本市政の与党第一党の立場を維持することはできない。右京区から府会議員に立候補した二ノ湯しんじ君は「今こそ、伝統が未来を拓く」をスローガンに掲げて若者らしく精力的な運動を展開、激戦の中、共産党の現職を打ち負かして、1万2千票余りを獲得し、堂々3位で初陣を飾った。

恒心

★世の中はめまぐるしく動いている。かつては十年一昔と言われたが、今やその間隔はうんと短くなった。全ての面で変化に対応しなければならぬ。★選挙も同様で世の変化に合わせた運動を展開しなければならぬ。選挙運動といえは、法律で許される選挙カーでの街宣活動、個人演説会、そして電話作戦などが主な手段である。今の世の中、それが果たして有効なのか、選挙民、有権者に訴える方法は他にないのか考える時期に来ている。★選挙カーはともかく、個人演説会は労力の割には、固い支持者を集めて会をしてもあまり意味がないと言われているが、これを思い切つてやめられる候補者はなかなかいない。電話作戦も最近では、女性の社会進出で昼間不在の家庭が多く、電話をかけても約半数近くが留守である。夜間に電話を掛けたいが、夜に電話をしてもらえるボランティアを探すのもまた一苦労である。★地域社会の崩壊、有権者の政治への無関心、若者の政治離れ等々、難しい状況の中での選挙、そういう時代の変化、地域社会の移り変わりに対応して、いかに有権者に自らの政見や意志を訴えるか、政治家も色々と知恵と工夫をこらさなければならぬ。★駅頭での朝立ち、夜立ち、市内を歩き回つてのお願い等々、今回の選挙で候補者の各々の選挙方法が見られた。候補者も、どう訴えたいか正直なところよくわからない。学問に王道なし。選挙にも王道なし。結局は日常、地道に、真面目にコツコツと努力するしかない。

参議院総務委員会 19年度NHK予算、全会一致で承認 二ノ湯議員、賛成討論を行う

去る3月27日、参議院総務委員会で平成19年度NHK予算に関する質疑が行われた。合計5時間かけ、与野党合わせて11人が質問をした。自民党からは4人が質問に立ち、園部町出身の小泉顕雄議員(比例代表)も熱弁をふるった。委員会でのNHKに対する質問の多くは、不祥事の再発防止とNHK職員への意識改革、受信料収納問題に集中した。それに対して、NHKの橋本会長は、経営委員会による指導を受けながら今後もしっかりと不祥事対策に取り組み、視聴者の信頼回復に努めたいと語った。質疑後、案件が採決される前に賛否を明らかにして意見を述べることを討論と言うが、今回自民党を代表して、賛成の立場から二ノ湯議員が討論を行った。その後19年度NHK予算は全会一致をもって可決され、翌日の参議院本会議で承認された。なお、委員会の様子は当日の深夜からNHKで録画放送された。



賛成討論を行なう二ノ湯議員

平成18年度 特別交付税配分決定

去る3月16日、平成18年度の特別交付税の特交の配分が決まった。本年度の特交は、配分総額自体が前年度比マイナス5・9パーセントの伸びで、都道府県マイナス12・4パーセント、政令指定都市マイナス12・2パーセントとなっており、財政力の低い市町村に対して傾斜配分(手厚く配分)をしている。

本年度は、台風・豪雨等の目立った災害が幸いにも京都府下にはなかったものの、全国的にはほぼ例年通りの財政需要(昨年度23億円、本年度25億円)があった。ただ、豪雪による除排雪に係る経費(昨年度608億円)は161億円にとどまり、大幅に支出が軽減された。

京都府に関しては、合併のあった南丹市は別として、城陽市、向日市、八幡市が「地域手当」の問題で平均を上回るマイナスの伸びであるものの、京都府分、市分(京都市を除く)ともほぼ全国平均の伸びとなっている。

平成18年度特別交付税交付金決定額(市分)(単位:千円)

市	17年度実績	(伸率)	18年度決定額	(伸率)
京都市	2,516,117	-8.3	2,216,109	-11.9
福知山市	1,457,127	-9.9	1,362,190	-6.5
舞鶴市	1,136,374	-9.5	1,062,096	-6.5
綾部市	575,018	-9.2	537,077	-6.6
宇治市	364,014	-9.9	345,161	-5.2
宮津市	606,120	-9.9	570,499	-5.9
亀岡市	797,095	-9.1	750,142	-5.9
城陽市	315,136	-10.3	291,327	-7.6
向日市	243,002	-10.1	227,058	-6.6
長岡京市	249,001	-9.9	234,184	-6.0
八幡市	557,010	-9.1	506,015	-9.2
京田辺市	208,123	-10.0	194,073	-6.8
京丹后市	1,445,139	-9.7	1,347,208	-6.8
南丹市	1,163,161		1,210,240	4.0
木津川市			508,072	
市分計(京都市除)	9,116,320		9,145,342	
京都府分	2,740,323	-15.8	2,396,307	-12.6

インドネシア国会議員団と懇談 二ノ湯議員、日本の国会制度について説明

インドネシアにとって日本は輸出入の両面で最大の貿易相手国であり、日本からの観光客も多く、官民共に友好関係を築いている。2004年にインドネシアで初めて行われた総選挙でも、日本は選挙専門官や日本政府選挙監視団を派遣し、積極的な支援を行った。その総選挙で当選したインドネシア地方代表議会議員(国会議員)の代

表10名が、去る3月25日から4月2日まで国際協力機構(JICA)の招待で日本を訪れ、日本の国会制度、議会運営、地方自治などの研修を受けた。3月28日、一行は参議院議員会館内の二ノ湯事務所を訪れ、興味深そうに事務所内を見学した。その後会議室で二ノ湯参議院議員と懇談を行った。懇談では、二ノ湯議員が自己紹介と国会活動の概要を説明した後、インドネシアの議員団からの質問を受けた。地元の声や国政に反映させる方法から、地元事務所の維持管理費についてまで質問は多岐にわたり、全員熱心にメモを取りながら二ノ湯議員の話に耳を傾けていた。インドネシアの議員団は友好的で、日本人に似た雰囲気も持ち合わせており、終始和やかなムードで懇談は一時中断続いた。翌日、一行は京都に移動し府議会を見学した後、限られた時間を割いて右京区西院の二ノ湯事務所も訪れ、その後南丹市に向かった。



参議院会館に訪問の
インドネシア国会議員と
二ノ湯議員

二ノ湯しんじ君、初当選までの9日間

**大勢の支援者を前に、
決意新たに出陣
9日間の選挙戦の
火蓋が切られる**

3月30日朝、明け方からの激しい雨も止み、晴天が広がる中、二ノ湯しんじ選挙事務所には、100名を越える友人・支援者が集まり、出陣式が盛大に行われた。

冒頭、今回の選挙事務所の総括責任者・高屋宏章氏は、選挙準備や後援会の拡大への協力に感謝を表す一方、これからの選挙戦での支持拡大への一層の協力を求めた。続いて、二ノ湯参議院議員は、「共産党が強い右京区において、自民党は府会2議席、市会3議席を獲得することが至上命題。『しんじ』はまだまだ年も若く、経験も少ない。ただ、その若さと行動力こそ武器。皆様の手で目的を達成させていただきたい」



と支援を呼びかけた。そして、決意表明に立った二ノ湯しんじ候補は、直前に決定したポスターの番号・4番にちなみ、「少年野球の頃は、足で出塁率を稼ぐ1番バッターだったが、これからはみんなから信頼される4番バッターを目指したい。『今こそ、伝統が未来を拓く』のスローガンを掲げて、9日間の選挙戦を戦い抜きたい」と戦いへの熱い思いを語った。最後に、西陣織工業組合理事長・渡辺隆夫氏の音頭でガンバロー三唱を行った。

**二ノ湯しんじ候補への
高まる期待
総決起大会に
600名を越える参加者**

選挙戦も中盤に差しかかった4月3日、選挙事務所近くの太秦中学校において、総決起大会として個人演説会が開催された。

冒頭、二ノ湯とし後援会・森春生会長は「もし、この選挙で負けるようなことがあれば、二之湯智の面子と政治生命に関わる。後援会の総力を結集して、なんとしても当選させなければならぬ」と一層の支持拡大を呼びかけた。また、応援弁士として遠方より駆けつけた三宝延住職・栢木寛照氏は、幼い頃から知る候補者の成長ぶりに感慨も一入の様子で、「伝統や文化がないがしろにされている現在、『今こそ、伝統が未来を拓く』のスローガンこそ、今の世の中に最も必要」と候補者にエールを送った。また、二ノ湯とし議員の先輩でもある中村安良市議員(西京区)は、「府

市協調の必要性が叫ばれて久しいが、依然として、まだまだ道半ば。無駄な二重行政をはぶき、真の府市協調の実現のためには、確かな理念を持つ府会議員の存在が不可欠。二ノ湯しんじ君の若さと行動力に期待したい」としんじ候補を大いに讃えた。

そして、二ノ湯しんじ候補は、政治家を志すに至った経緯を振り返りながら、「混乱を深める現状を打開するためには、伝統・文化・礼節、そして自然といった長年にわたり積み重ねてきたものを今一度見直し、様々な課題や問題に対し、地域のみならずと一緒になって考え、行動していきたい」と熱い決意と高い志を雄弁に訴えた。

当日は、後援会とスタッフの必死の呼びかけと若い候補者への期待と関心の高まりから、開始一時間前から続々と参加者が集まり、多数立ち見が出てしまう程の大盛況で、会場は熱気に包まれ、残りの選挙戦への大きな弾みとなった。



**夜の桃太郎戦術「歩き隊」
演説会をやめ、歩いて支持を訴える**

最近の各種選挙では、夜の演説会は、多くの参加者を集めることが非常に難しくなってきたおり、どの陣営も苦勞している。

そうした状況の中、陣営では、候補者が若く、また新人でもあり、幅広い世代に訴えるために、演説会の回数を大幅に減らし、午後6時から8時までの2時間、各地域を歩いて、訴える戦術をとった。連日、10数人の地元有力者や若い支援者の大きな掛け声とともに、候補者は家からわざわざ出てきてくれた支持者やすれ違う行人に握手して走り回り、支持を訴えた。実際、早朝の駅立ちから昼間の街宣活動に加え、毎日2時間の「歩き隊」は候補者にとって体力的には厳しかったが、若さと持ち前の体力と強い精神力、そして支持者の温かい激励で乗り越えた。「歩き隊」は通常の選挙カーでは入ることのできない狭い道なども回ることで、非常に効果的な戦術であり、今後の選挙では、ますますこのような活動が注目を集めるかもしれない。



4月28日、自民党府連大会開く 党役員を決定 注目される幹事長人事

役員任期満了に伴い、自民党京都府連では次の役員人事に着手することになった。

主な人事は、会長、副会長・そして幹事長である。伊吹会長の後任は当然国会議員からになる。伊吹文明、谷垣禎一衆議院議員以外は、衆参議員とも議員歴が3年未満で会長という重要なポストに就くことは時期尚早である。副会長ポストは従来単なる名誉職で権限がなかったが、国会議員が副会長を務めるのだからもう少し実質的に働いてもらうべきだという声がある。従って、次期副会長は会長を補佐する場面が多くなるであろう。焦点は幹事長人事である。知事選挙は府会、市長選挙は市会から幹事長を選出している。来年2月には市長選挙が実施される。慣行通りになれば、京都市会議員団から出ることとなる。伊吹府連会長は、今後の知事・市長選挙は、自民と民主の相乗りではなく共産も交えた三つ巴の選挙になる可能性を再三示唆している。自民党本部は、都道府県知事、政令指定都市の市長について推薦は3選までで、4選以上は推薦しない方針を示している。これに対して、榊本市長がどう出るか、あるいは民主党が独自候補を立てるのか、自民党はどうするのか、次期幹事長の仕事は非常に重要であり、難しい。4月28日には自民党は府連大会を開き、次期役員人事を決定する。市会議員団は選挙疲れを癒す暇もなく幹事長の人選を急がなければならない。

第170回 みんなで歩こう湯歩会

- ・日 時：4月22日(日) (小雨決行)
- ・出発時刻：午前9時(時間厳守)
- ・集合場所：地下鉄国際会館駅4—1出口
- ・コース：宝ヶ池公園→宝ヶ池菖蒲園→宝ヶ池畔一周→狐坂新高架橋→宝ヶ池スポーツセンター・深泥池畔→植物園内→地下鉄北山駅解散
- ・今回は、国際会館公園の遅咲きの桜を楽しみ、深泥池の遊歩道・植物園内を歩きます。植物園入園料は200円です。60才以上の方は無料ですが、公的な証明書の提示が必要です。(診察券は無効)
- ・代表世話人 北村好司郎 ☎075-313-8758 (当日)090-1956-7460

歩くことは 健康の基本

第169回 みんなで歩こう湯歩会 (参加者64名)



新十条通り入口にて

身辺雑記

一、4年に一度の統一地方選挙。今回も各地で熱戦が繰り広げられた。同僚の参議院議員で知事に当選した人もあれば、政令市長選挙に惨敗した人もある。選挙は惨酷でこれほど勝てば官軍ということを露骨に表すものはない。それだけに各候補は必死にやらなければならない。

一、NHKの受信料の義務化と20%の値下げの法律案はひとまず提案されないこととなった。これでNHKは安心してはいけない。すきあらばNHK批判はどこから飛んでくるか分からない。常に緊張感を持って経営する必要がある。

一、尾身財務大臣が松坂大輔投手に対するNHKの過剰な報道にクレームをつけた。いくら話題の選手とはいえ、夜7時、9時のトップニュースに持つてくることはないであろう。もう少し落ち着いた報道がNHKに求められる。

171回(5月) みんなで歩こう湯歩会 予告

5月の歩こう会は、27日(日)に、美山かやぶきの里と京北方面を予定しております。朝市やシャクナゲの群生など大自然と歴史と文化の里として知られています。なお、往復貸切バスを利用しますので事前に申込が必要です。

*行程・参加費用など詳細は、5月号の「えとす」にてご案内します。

「えとす」購読のお願い

月刊誌「えとす」は毎月一回の発行です。毎月ご希望の方は、郵便口座振替にて、ぜひお申し込み下さい

年間購読料 1200円

郵便振替口座 01000-4-62360

口座名：みんなで政治を考える会

— お問い合わせ先 —

二ノ湯さとし事務所
電話 075-315-2228

ホームページを開設いたしました
<http://www.ninoyusatoshi.com>

「新政経懇話会」入会のお願い

「新政経懇話会」では、機関紙「えとす」の発行をはじめ、二ノ湯さとしの政治活動をご支援いただける会員を募集しております。是非、二ノ湯さとしの政治理念と主張にご賛同いただき、ご入会下さいませようお願い申し上げます。

新政経懇話会 年会費 1万円

入会申込・お問い合わせ先

二ノ湯さとし事務所 ☎075-315-2228

が、ほとんど休憩も取らずに走り回った。周囲は私の体力に驚いていた。しかし、今回の地方選挙、僅か9日間であったが、息子の選挙のせいかわれ果てた。一、今問題になっている衆議院の新しい議員宿舎。超一等地にホテルのような豪華な建物といわれているが、私はまだ見たこともない。家賃が周辺相場と比べて破格に安いと厳しく批判されている。もつと高くすべきだという意見も多いが、それでは議員の歳費は残らず、生活が出来なくなってしまう。その点も考えなければならない。